

ご注文は JRC へ FAX 03-3294-2177

株式会社 JRC 経由で、すべての取次への出荷が可能です。返品は長期に承ります

新刊のご案内

6/27^火発売!

ユニコ舎



子ども受難の時代の処方箋 —それは子守唄

日本の子守唄

「ねんねんころり」のふるさとへ

西館好子 著

四六判 / ソフトカバー

本文：326 ページ

定価：本体 1,800 円 + 税 (1,980 円)

ISBN 978-4-911042-03-8

二十数年わたって日本中の子守唄を探し歩きいた西館好子氏。子守唄が果たしてきた役割を考え続けてきました。やがてひとつの答えにいきつきます。

——母親はシンガーソングライターとなって独自の想像力でさまざまな言葉を編んでいきます。子守唄の歌詞には母親の愚痴や不平不満も盛り込まれるものです。おそらくその正直な本音こそが、人が信頼関係を築く基本の一步なのだと私は思います。

大家族の時代はすでに遠く、核家族が当たり前になっていた中で行き詰まりを見せる親子関係。子ども受難の時代の始まりでした。西館さんは世代をつないで編まれてきた「子守唄」こそ、病める現代社会の処方箋になると信じています。

著者プロフィール

西館好子(にしだて・よしこ)●1940年10月5日、東京浅草生まれ。かもじ職人・内山東太郎の次女。大妻高等学校卒業後、電通に勤務。1961年、井上ひさしと結婚。三女をもうけるが1989年に離婚。1982年に劇団こまつ座、1989年に劇団みなと座を主宰。1995年、スポーツニッポン文化大賞を受賞。子どもの虐待、女性問題に関する活動などに精力的に取り組み、2000年に特定非営利活動法人日本子守唄協会を設立。2022年11月に群馬県下仁田町で子育て支援の女性自立村「ねぎぼうずプロジェクト」事業を創立、その活動を推し進めている。

番線印	ご担当	ご注文	発行：ユニコ舎
	様	冊	新刊 日本の子守唄 西館好子 著 「ねんねんころり」のふるさとへ [新刊] ISBN 978-4-911042-03-8 定価：本体 1,800 円 + 税 (1,980 円) 四六判 / ソフトカバー / 本文：326 ページ

発行：株式会社ユニコ舎 TEL:03-6670-7340 FAX:03-4296-6819 東京都世田谷区船橋 2-19-10 ポー・プラージュ 2-101